

		沖縄防衛局報告書	宮田秀明氏見解
1	ダイオキシン異性体分析	“今回のたまり水は前回実施（平成 26 年 6 月調査）のたまり水に比べ、1,2,3,7,8-PeCDD の割合がやや多く（今回：27.6%，前回：21.3%）、2,3,4,7,8-PeCDF の割合がやや少なく（今回：2.5%，前回：8.4%）になっているが、その他の異性体割合は概ね類似しており、たまり水のダイオキシン類は、前回実施（平成 26 年 6 月調査）分と同一なもの（2,4,5-T 中不純物、PCP 中不純物、および PCB に由来するダイオキシン類が混合して存在していた）と考えられる。”（p.30）	溜まり水に検出される主なダイオキシン類化合物は、2,3,7,8- TeCDD、1,2,3,7,8-PeCDD および 1,2,3,4,6,7,8-HpCDD である。特に、1,2,3,7,8-PeCDD は、焼却関連物（焼却灰、焼却飛灰など）に含まれる代表的なダイオキシン類異性体であることを考慮すると、沖縄防衛局の本報告書の 30 頁に記載されている”「2,4,5-T 中不純物、PCP 中不純物、および PCB に由来するダイオキシン類が混合して存在していた」と考えられる“との内容は、正確ではない。おそらく、焼却関連物も埋立物に含まれており、それらからの溶出物も混在していたものと判断される。
2	ダイオキシン類の溶解性を増加させる物質	これらのことから、ろ過水のダイオキシン類は、水中のフミン酸やフルボ酸などに保持されて、ろ液中に通常より多く存在していた可能性が考えられる。（p.30）	“今回の調査結果では、溜まり水に含まれていた 170 pg-TEQ/L のダイオキシン類の中、約 1/5 に相当する 33 pg-TEQ/L も溶存体として存在する。このような極めて高率で溶存体として存在するためには、ダイオキシン類の溶解性を増加させる物質が溜まり水に含まれていたと考えられる。本報告書の 30 頁には、一般土壌に存在する腐植物であるフミン酸やフルボ酸が溜まり水に含まれており、ダイオキシン類の溶存体を増加させたものと記載されている。しかし、溜まり水は着色しており、土壌由来であればほとんど着色しないものと思われる。遺棄・埋設物にはいろいろな廃棄物が含まれており、特に、界面活性剤のような油性物質と水性物質の両者を熔解できるような物質が溜まり水に溶けていたものと思われる。産廃の埋め立て地などでは、溜まり水の色が褐色や赤色のものもあり、明らかに埋め立て物を反映している。溜まり水にダイオキシン類が異常に高い濃度で存在していることは、当然のことながら埋め立て物に起因するものである。当然のことながら、着色物質も埋め立て物に起因するという考え方が、適切であると判断される。”

（沖縄防衛局報告書、宮田秀明氏意見書から抜粋。ゴシックは引用者）